



～コラムコーナー～

SNS による性被害に

遭わせないために

警察庁の統計によると全国的に SNS に起因する犯罪被害児童・生徒数は年々増加する傾向にあり、その中でも性被害に遭うものがほとんどを占めています。性被害は子どもの心に一生消えない深刻な傷を残してしまうこととなります。被害を防ぐためには子ども達への SNS の正しい利用に関する教育が大切です。

◎ SNS による性被害にはどのようなものがあるのでしょうか？

○児童ポルノ被害

- ・自画撮り被害：裸の写真等を要求され送信してしまい、それをネタに脅される
- ・リベンジポルノ：元交際相手から逆恨みされ、裸の写真等をネット上に拡散すると脅される

○児童買春被害、未成年誘拐被害

- ・援助交際、パパ活・ママ活：SNS で知り合った人に言葉巧みに誘い出され、直接会ったところ、ホテル等に連れ込まれて被害に遭う

○ストーカー被害

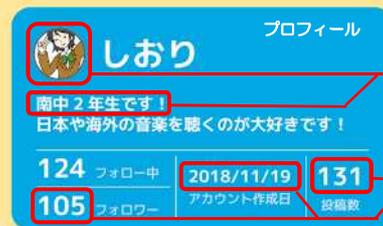
- ・ストーカー被害：SNS に投稿した写真から自宅等が特定され、知らない人に付きまとわれ、脅され、被害に遭う



◎ SNS の利用上の注意点

○SNS 上のプロフィール等はなりすましの場合があります

- ・相手の本当の姿は分からないため、SNS で知り合った相手とは気軽に会わない



本当の顔や年齢？

どんな人がフォロワー？
どんな投稿をしている？
いつから利用している？

○SNS を利用するときは・・・

- ・公開した写真や動画は第三者が勝手に保存や拡散できてしまうため、インターネット上から完全に消去できないことを認識する
- ・顔写真を公開することで知らない人からのメッセージが多くなったり、また、自宅周辺の写真を公開すると風景や位置情報から自宅が特定されたり、制服から学校が特定されてしまう危険性がある



○性的な画像を撮ったり、送ったりしない

- ・人に見られて困る写真（裸や下着姿）は、どんな理由をつけられても絶対に「撮らない、撮らせない、送らない」

(出典：青少年のネット利用実態把握を目的とした調査)

被害の相談を受けたときは・・・

- ・まずは警察に相談する
- ・被害を受けている証拠を残す（スクリーンショット等で記録する）
- ・「ブロック」や「通報」等の機能を使用して対応する
- ・ネット上の削除依頼は速やかに行う（時間が経つほど拡散してしまう）



中学校における展開例



第1学年「心身の機能の発達と心の健康」異性の尊重と性情報への対処 (保健体育科 保健分野)

1. 単元名 異性の尊重と性情報への対処

2. 単元の目標

- (1) 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 心身の機能の発達と心の健康について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

小学校では、体の発育・発達の一般的な現象や個人差、思春期の体つきの変化や初経、精通などを学習している。また、心も体と同様に発達し、心と体には密接な関係があること、不安や悩みへの対処などを学習している。

ここでは、健康の保持増進を図るための基礎として、心身の機能は生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することについて理解できるようにする必要がある。また、これらの発達の仕方とともに、心の健康を保持増進する方法についても理解できるようにするとともに、ストレスへの対処ができるようになる必要がある。さらに、心身の機能の発達と心の健康に関する課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要である。

このため、本内容は、年齢に伴って身体の各器官が発育し、機能が発達することを呼吸器、循環器を中心に上げるとともに、発育・発達の時期や程度には個人差があること、また、思春期は、身体的には生殖に関わる機能が成熟し、精神的には自己形成の時期であること、さらに、精神と身体は互いに影響し合うこと、心の健康を保つには欲求やストレスに適切に対処することなどの知識及びストレスへの対処の技能と、心身の機能の発達と心の健康に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆体の発育・発達	○			<p>○体の発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育する時期があること、また、その時期や程度には、人によって違いがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを知る。 ・身長や体重が急に発育する時期について知る。 ・思春期において、これまで見られなかった体の変化や男女の特徴が現れることについて知る。 ・各器官の発育・発達の時期や程度に個人差があることについて知る。 ・学習のまとめをする。
第2時	◆呼吸器・循環器の発育・発達	○	○		<p>○体の発育・発達には、呼吸器系、循環器系などの機能が発達する時期があること、また、その時期や程度には、人によって違いがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児と自分の呼吸数と心拍数について比較する。 ・学習のねらいを知る。 ・呼吸器及び循環器の発育・発達について知る。 ・呼吸器・循環器の機能の発達と個人差について知る。 ・呼吸器・循環器の機能から、運動習慣との関係について考える。 ・学習のまとめをする。
第3時	◆生殖機能の成熟①	○			<p>○思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習を振り返り、思春期における男女の体の変化について思い出す。 ・学習のねらいを知る。 ・思春期の体の変化とホルモンについて知る。 ・男子の生殖機能の発達について知る。
第4時	◆生殖機能の成熟②	○			<ul style="list-style-type: none"> ・女子の生殖機能の発達について知る。 ・受精と妊娠について知る。 ・学習のまとめをする。
第5時 (本時)	◆異性の尊重と性情報への対処	○			<p>○身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的関心をもったことがある人の割合に関する資料から気づいたことを話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・性的関心の高まりと異性の尊重について知る。 ・性情報への対処について知る。 ・事例を基にどのようにアドバイスをしたらよいか考える。 ・学習のまとめをする。
第6時	◆知的機能と情意機能の発達	○	○		<p>○心は、知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉えられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達すること。</p> <p>○知的機能については認知、記憶、言語、判断など、情意機能については感情や意思などがあり、それらは人や社会との様々な関わりなどの生活経験や学習などにより発達すること。</p> <p>○社会性については、家族関係や友人関係などを取り上げ、それらへの依存の状態は、生活経験や学習などの影響を受けながら変化し、自立しようとする傾向が強くなること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生の時の自分と今の自分を比較（知的・情意面）する。 ・学習のねらいを知る。 ・知的機能の発達について知る。 ・情意機能の発達について知る。

				<ul style="list-style-type: none"> ・心の働きについて考える。 ・学習のまとめをする。
第7時	◆社会性の発達と自己形成	○		<p>○自己形成については、思春期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりするとともに、物の考え方や興味・関心を広げ、次第に自己を認識し自分なりの価値観をもてるようになるなど自己の形成がなされること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に遊ぶ時のルールの決め方や捉え方について、年齢によってどのように変化するか話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・社会性の発達と自立について知る。 ・自己形成について知る。 ・学習のまとめをする。
第8時	◆心と体の関わり	○		<p>○精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていること。また、心の状態が体にあらわれたり、体の状態が心にあらわれたりするのは、神経などの働きによること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張した時の体の変化について考える。 ・学習のねらいを知る。 ・心の状態が体に現れることについて知る。 ・体の状態が心に現れることについて知る。 ・学習のまとめをする。
第9時	◆欲求と欲求不満	○	○	<p>○心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であること。</p> <p>○欲求には、生理的な欲求と心理的、社会的な欲求があること、また、精神的な安定を図るには、日常生活に充実感をもてたり、欲求の実現に向けて取り組んだり、欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けたりすることなどがあること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～したい」「～が欲しい」と思うことについて考え、グループで分類分けを行う。 ・学習のねらいを知る。 ・様々な欲求について知る。 ・欲求への対処について考える。 ・学習のまとめをする。
第10時	◆ストレスへの対処と心の健康①	○	○	<p>○ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なること、個人にとって適度なストレスは、精神発達に必要なものであること。</p> <p>○ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること、ストレスの原因についての受け止め方を見直すこと、友達や家族、教員、医師などの専門家などに話を聞いてもらったり、相談したりすること、コミュニケーションの方法を身に付けること、規則正しい生活をするなどいろいろな方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスがかかる場面において、自分の考えをまとめる。 ・学習のねらいを知る。 ・ストレスについて知る。 ・ストレスの影響について考える。 ・学習のまとめをする。
第11時	◆ストレスへの対処と心の健康②	○	○	<p>○リラクセーションの方法等を取り上げ、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへの対処方法について考える。 ・リラクセーションの方法を取り上げ、実際に行ってみる。 ・学習のまとめをする。

5. 展開例(5/11)

(1) 本時の目標

身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。(知識)

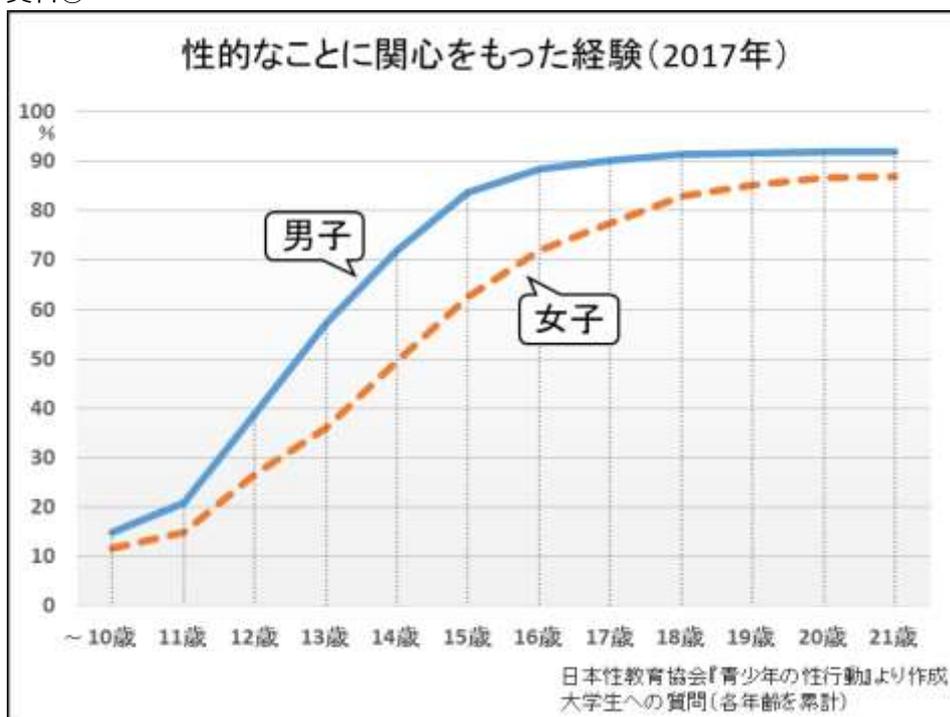
(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>1 資料①から中学生期の気持ちの変化について考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9;">性的関心をもったことがある人の割合に関する資料を見て分かることはあるかな？</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢とともに割合が多くなっている。 ・中学生期の増加が大きくなっている。 ・男子の方が割合が多い。等 <p style="background-color: #00FFFF;">思春期になると異性への関心が高まったり、強い性的欲求(性衝動)が起こったりすること。</p>	<p>○本時の内容として、自分の考えを表現することが難しい生徒がいることも考えられるため、生徒一人ひとりの様子を見ながら、配慮及び支援していく。</p> <p>○思春期には、異性への関心が高まったり、強い性的欲求が起こったりすることを知らせるとともに、こうした性意識の変化は自然なことであり、その感じ方には個人差があることを伝える。</p>
展開	<p>2 学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">性への関心が高まる思春期に気をつけることは何でしょう。</div> <p>3 資料②から中学生の性情報の入手方法について知り、気をつけることについて考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9;">資料②を見て分かることはあるかな？</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人や先輩からの入手方法が一番多い。 ・男女によって違いがある。 ・いろんな入手方法がある 等 <p style="background-color: #FFDAB9;">資料③「インターネットのウェブサイトに関係した事件の被害者のうち、小学生、中学生、高校生の数」のグラフを見て気づいたことを書こう</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の被害が多い。 ・女子の被害が多い。 <p style="background-color: #FFDAB9;">どうしてインターネットのウェブサイトに関係した被害にあうのだろう。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にも相談していない。 ・正しい情報なのかの判断ができない。 <p style="background-color: #00FFFF;">性情報に適切に対処するためには、正しい情報を選択し、適切な行動をとることが大切であること。</p>	<p>○中学生の性情報の入手方法についての資料を提示し、読み取れることを発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">生徒の自由な発想を大切にしながらも、話題が飛躍しないように進めましょう！</p>  </div> <p>○インターネットによるトラブルの原因について考え、性情報に適切に対処するためには、正しい情報を選択し、適切な行動をとることが大切であること。</p> <p>○入手した性情報について、その情報が本当に必要なものなのか、信頼できる情報なのかを判断する必要があることについて考えさせる。</p>

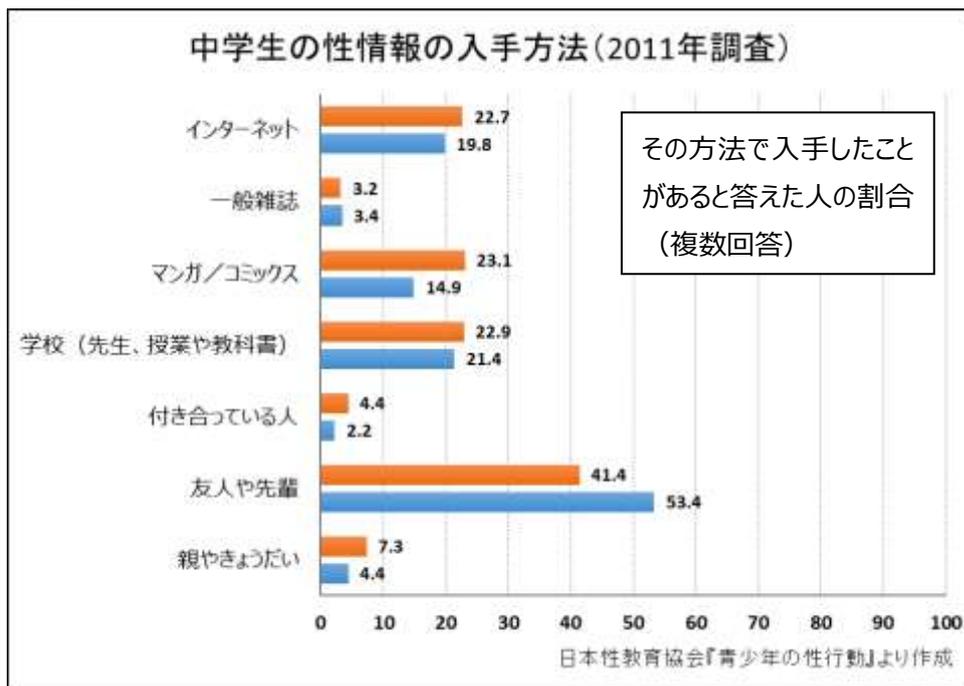
	<p>4 資料②「中学生の性情報の入手方法」から、正しい判断ができなかった場合、どのような問題が引き起こされるのか考える。</p> <p>性情報を入手し、正しい判断ができなかった場合、どんな問題が起こるだろうか。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩み事が増える。 ・インターネットから犯罪に巻き込まれてしまう。 ・自分勝手な思い込みで相手を傷つけてしまう。 ・望まない妊娠を招いてしまう。 <p>5 事例を基に、アドバイスの内容を考える。</p> <p>友だちのAさんにアドバイスをしよう。</p> <p>事例</p> <p>インターネットのサイトで知り合った人物と会おうとしている友人がいる。</p> <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、ロールプレイング方式で行う。 ・グループで代表者を決め、クラス全体で内容を共有する。 	<p>○正しい判断ができないと、どう困るのか、何が問題なのかについて考えさせ、適切な行動をとることの大切さについて理解させる。</p> <p>○本時の授業で学習した内容から、具体的な場面において活用できるようにする。</p> <p>○適切な行動の選択のために、保健所や教育相談センターなどの信頼できる情報源から必要な情報を得たり、医師などの専門家に相談することも有効であることを伝える。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 学習のまとめを行う。</p> <p>身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となること。</p> <p>これから実践していきたいことを学習カードに記入しよう。</p>	<p>◆【知識・技能】</p> <p>身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(観察・学習カード)</p>

(3) 資料等

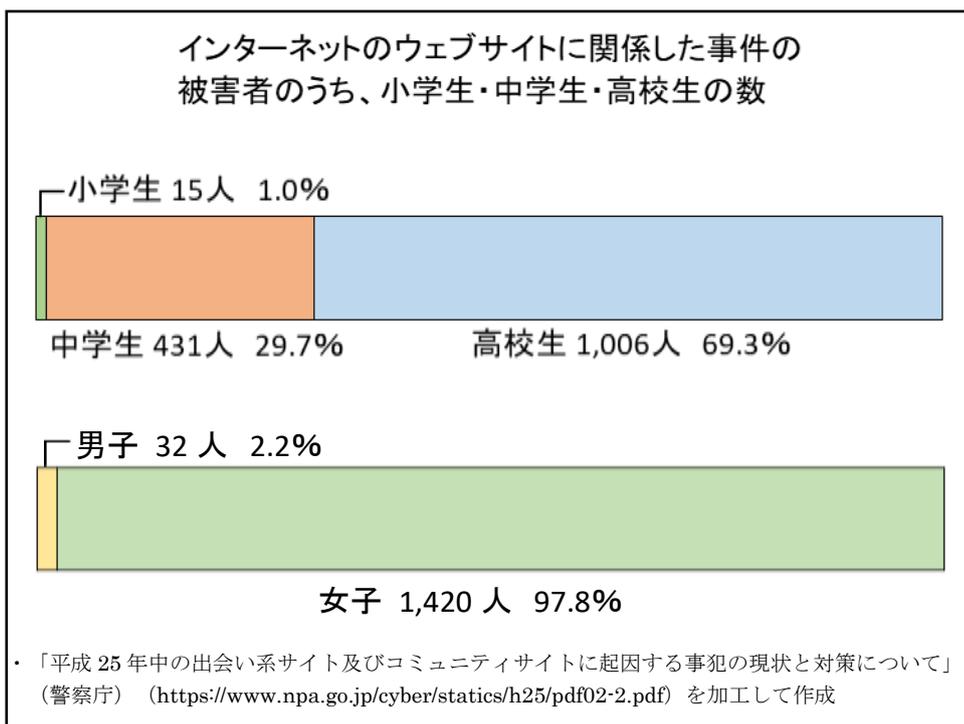
資料①



資料②



資料③



中学校における展開例



第2学年「幼児の生活と遊びを知ろう」(技術・家庭科)

1. 題材名 「幼児の生活と遊びを知ろう」A 家族・家庭生活 (2)幼児の生活と家族

2. 題材の目標

- (1) 自分の成長と家族や家庭生活との関わり、幼児の発達の生活の特徴、子どもが育つ環境としての家族の役割、幼児にとっての遊びの意義、幼児との関わり方について理解する。(知識及び技能)
- (2) 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 題材について

この題材では、幼児の心身の発達とそれを支える生活や、幼児期における周囲の人との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性が分かり、幼児にふさわしい生活を整える家族の役割について理解できるようにする。

幼児の発達の特徴については、身体の発育や運動機能、言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要について理解できるようにする。その際、認知については、ものの捉え方について扱い、幼児は自己中心的に物事を考えたり、生命のないものに命や意識があると捉えたりするなどの特徴があることを理解できるようにする。

幼児の生活の特徴については、幼児は遊びを中心とした1日を過ごしており、昼寝をするなど全体の睡眠時間が長く、3回の食事以外にも間食をとるなどの生活リズムを持っていることを理解できるようにする。また、食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔などの基本的な生活習慣については、生活の自立の基礎となるので、幼児の心身の発達に応じて、親をはじめ、周囲の大人が適切な時期と方法を考えて身に付けさせる必要があることを理解できるようにする。さらに、あいさつや安全のルールなど、人との関わりや社会のきまりなどについても、適切な時期と方法を考えて身に付けさせる必要があることにも触れるようにする。

この学習を通して、幼児の発達の特徴を正しく理解し、幼児とのよりよい関わり方を工夫することで、自分の幼児期を支えていた家族や周囲の人々の思いを改めて考えたり、多くの人々との関わりがあって今の自分があることにも気付いたりすることができるであろう。また、子どもを守る条約や法律とも関連させ、幼児は社会全体で守られるべき存在であることについても、幼児の生活の模擬体験や交流などの体験を通して考えを深めていけるようにする。

4. 指導計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆中学生の自分と幼児	○	○	○	○自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて理解する。 ・既習内容の家族・家庭の機能（子どもを育てる）について確認する。 ・写真や映像、インタビュー等から、幼児期に周囲の人がどのように関わっていたのかを全体で共有する。 ○幼児とのふれ合い交流会で幼児との関わり方について問題を見だし、課題を設定する。 ・前年度までの交流会の写真や映像から気付いたことを発表する。 ・ふれ合い交流会で幼児とよりよく関わるための課題を設定する。
第2時	◆幼児の生活と遊びを知ろう	○		○	○幼児の体の発育、運動機能の発達の特徴を理解する。 ・写真や映像、実物資料（服、絵、おもちゃ、生活の小物）、体験等から、幼児の体の発育や運動機能の特徴を考え、話し合う。 ・幼児の視覚や歩行を体験し、幼児の体の発達の特徴を理解する。
第3～4時		○			○幼児の言語、認知、情緒、社会性の発達の特徴を理解する。 ・幼児の写真や映像資料から、そのときの幼児の気持ちを考え、情緒の発達について話し合う。 ・ロールプレイングを通して、幼児のものの捉え方や人との関わり方について気付いたことをまとめる。 ・幼児に関わる映像を見たり、資料を調べたりして、幼児の言語、認知、情緒、社会性の発達の様子を年齢ごとに整理する。
第5時		○			○子どもが育つ環境としての家族の役割や幼児の一日の生活について理解する。 ・基本的な生活習慣を身に付けるときの言葉かけや環境の整え方についてロールプレイングを行い、家族の役割についてまとめ、全体で共有する。 ・社会的な生活習慣の習得を支える周囲の人々の役割についても理解する。
第6時		○			○幼児にとっての遊びの意義を理解し、遊びの意義を踏まえた幼児との関わり方を考える。 ・幼児期の遊びを思い出し、どのような発達を促すのかを考え、遊びの意義についてまとめる。 ・幼児の発達に応じた遊びやゲーム、おもちゃを考え、ふれ合い交流会での内容を決める。 ・幼稚園の先生の絵本の読み聞かせや幼児との関わり方について観察（動画視聴など）し、気付いたことを交流する。
第7時 (本時)	◆関わり方を工夫して幼児と交流しよう		○	○	○幼児の発達の特徴を踏まえた幼児との関わり方や遊び方について考え、ふれ合い交流会の実践計画を工夫する。 ・グループごとに交流会でのふれ合い活動を考え、実践計画を立てる。 ・グループごとにふれ合い活動で行う遊びのシミュレーションを行い、実践計画を見直す。
第8～9時		○	○		○ふれ合い交流会で幼児とふれ合い体験を行い、幼児を観察したり、一緒に活動したりすることを通して、幼児との関わり方を工夫することができる。 ・交流のねらい、グループや自分の課題を確認し、幼児の発達の特徴を考えた交流を行う。幼児一人ひとりの個性を尊重した関わり方を考える。 ・実践計画に沿って、幼児の行動や表情を観察したり、安全を考えて一緒に遊んだりする。 ・困ったことが起きた場合は、グループの仲間や周りにいる大人に相談する。
第10時		○	○		○幼児とのふれ合い交流会を振り返り、観察したことをまとめたり、発表したりすることができる。 ・ふれ合い交流会を振り返り、幼児の特徴について交流する。 ・異なる年齢の幼児を担当したグループと交流し、発達の特徴についてまとめ、発表し合う。

第 11 時			○	<p>○幼児とのふれ合い交流会を振り返り、実践を評価したり、改善したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせや幼児との関わり方で、うまくできたこと、困ったことなどの課題を発表する。 ・実際に困った例について、どのように対応すればよかったのかをグループ内で意見交流しながら考え、発表し合う。
第 12 時			▼	<p>○自分と幼児とのこれからの関わり方について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしている方や子育ての支援を行っている方をゲストティーチャーに招き、話を聞く。 ・これから幼児とどのように関わっていきたいか、学習したことをもとに自分の考えをまとめる。

5. 展 開 例 (7/12)

(1) 本時の目標

- ・幼児とのよりよい関わり方について考え、幼児との関わり方を工夫、改善することができる。

(2) 展開 □ : ねらい □ : 学習内容 □ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	<div style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児の発達の特徴を振り返ろう</p> </div> <p>幼児の身体の発育、運動機能の発達の特徴について学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 語文から 2 語文、3～4 語文へ ・ 情緒の表現がコミュニケーション ・ 身長に対する頭の割合が大きい ・ ものにも命や心がある ・ 遊びの中で社会性が育つ。 ・ 視野がせまい 	<p>○幼児の言葉、認知、情緒、社会性、運動機能の発達の様子など、前時までにまとめた資料で確認する。</p>
	<div style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習のめあてを確認しよう</p> </div>	<p>○幼児たちとどのような交流をすることがよいか、交流のイメージをもたせるようにする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児との関わり方について考え、幼児の発達や特徴を意識した交流計画を考えよう</p> </div> <p>幼児との交流を行うにあたって、不安なことや心配なことを共有し、学習課題を設定する。</p>	
	<div style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼児の発達や特徴を考えた関わり方を考えよう。</p> </div> <div style="background-color: #00FFFF; padding: 10px;"> <p>モデルケースで場面設定をし、グループごとに対応を考える。</p> <p>【例】①読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手の話にすぐに反応する ・ すぐに飽きてしまう ・ 聞いている隣りの子と遊んでしまう <p>②ボール遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを取り合っけんかする ・ ひとりだけで遊ぶ ・ 友達とぶつかって泣いている <p>③おもちゃ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか作ろうとしない ・ 話をきかない ・ 中学生にすぐ甘える ・ ちがうことをしている </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>幼稚園では、「嫌な気持ちになる触り方」について丁寧に指導していることを伝え、身体接触がある場合はどのような対応がよいかを考えさせる。</p> </div>  <p>○交流する幼児たちの情報が少ないので、いろいろな場面や反応を想定して具体的に対応を考えさせるようにする。</p>

<p>個人で対応を考える。 グループで意見交流をしたり、ロールプレイングで実際に活動したりして、個人で考えた関わり方を共有する。</p> <p>グループでの話し合いを踏まえ、幼児との関わり方を「言葉がけ」や「行動」の視点から改善し、実践計画を見直そう。</p> <p>言葉がけ…ゆっくり、はっきり話す。声の大きさも工夫する。 全体への声かけと個人への声かけを使い分ける。 指示は短く、わかりやすく伝える。 説明を工夫する。間をとって伝える。 上手にできたらたくさんほめる。 失敗しても怒らない。</p> <p>行 動…目線を合わせる。表情をつけて聞く。相づちを打つ。 話し手に注目させる工夫を考える。 どうして幼児がその行動をとるのか気持ちを考える。 幼児との距離を考える。 紙芝居（絵）を準備して説明する。 幼児のつぶやきを聞いて、臨機応変に対応する。 など</p> <p>今日の学習を振り返り、次の学習の見直しをもとう。</p> <p>今日の学習課題に沿った振り返りを行う。</p>	<p>○グループごとの話し合いでは、幼児の発達の特徴を捉えているか、幼児の思いに寄り添った関わり方になっているか、をアドバイスし合うようにする。</p> <p>○グループでの活動計画や分担、時間配分などを見直し、具体的な改善策やよりよい関わり方を考えさせる。</p> <p>◆幼児との関わり方について、幼児の心身の特徴や年齢による発達の違い等の視点を考慮し、幼児への言葉かけや行動の面から改善している。 (思考・判断・表現)</p> <p>○次時は実際に交流を行うことを確認し、自分のめあてを考えるようにしておく。</p>
---	---

(3) 資料等 ・ 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編

6. 他教科との関連

・ 社会（公民）法の意義の理解

「子どもを守る条約や法律」①児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）

- ②児童憲章前文
- ③児童福祉法総則
- ④日本国憲法

中学校における展開例



第3学年「健康な生活と疾病の予防」感染症の予防 (保健体育科 保健分野)

1. 単元名 感染症の予防

2. 単元の目標

- (1) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解することができるようにする。(知識)
- (2) 感染症の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 感染症の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

病原体が主な要因となって起こる病気の予防については、小学校体育科保健領域で学習している。それらを踏まえて、ここでは、病原体が主な要因となって発生する感染症、発生源、感染経路、主体への対策による感染症予防について理解できるようにする必要がある。また、感染症の予防に関する課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要である。

本単元では、感染症の予防について理解させることにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆感染症				○感染症は、病原体が主な要因となって発生し、適切な対策を講じることによりリスクを軽減することができること。 ○様々な環境や主体の抵抗力などの条件が相互に関係する中で、病原体が体に侵入し、感染症が発病すること。 ・インフルエンザに感染する原因について考える。 ・学習のねらいを知る。 ・国によって流行する感染症が違うことについて考える。 ・病原体の種類ごとの感染経路を調べ、感染症が発病することについて知る。 ・本時の学習のまとめをする。
第2時	◆感染症の予防				○感染症の多くは発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。 ○感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であること。

				<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザの予防法について話し合う。 ・学習のねらいを知る。 ・感染症の予防方法について知る。 ・自分が感染症にかかった場合に取りるべき行動について考える。 ・感染症にかかった場合の対応について知る。 ・本時の学習のまとめをする。
第3時 (本時)	◆ 性感染症の予防	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○性感染症の疾病概念や感染経路や、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があること。 ・性感染症報告数のグラフを見て気付いたことを発表する。 ・学習のねらいを知る。 ・性感染症の疾病概念や種類を知る。 ・性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。 ・本時の学習のまとめをする。
第4時	◆ エイズの予防	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○エイズの疾病概念や感染経路や、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があること。 ・病気の特徴から病名を考える。 ・学習のねらいを知る。 ・HIVの感染経路から、予防方法について知る。 ・自分が感染しない方法を考える。 ・本時の学習のまとめをする。

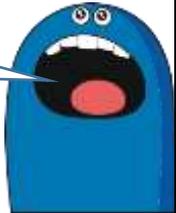
5. 展開例 (3/4)

(1) 本時の目標

- ・ 性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて理解できるようにする。(知識)
- ・ 感染症の予防について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等に係るリスクを軽減する方法を選択するとともに他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 感染症の予防について関心を持ち、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>1 性感染症報告数のグラフ(梅毒)を見て気付いたことを発表する。</p> <p style="background-color: #FFDAB9; padding: 5px;">これはある感染症の報告者数の年齢別の年次変化を表したグラフです。気付いたことを話し合ってみよう。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々増えている。 ・10年前の10倍以上になっている。 ・若い人が多い。 ・年寄りが少ない。 ・何の病気だろう。 	<p>○授業前に学校全体で共通理解を図るとともに、学年だより等で学習内容を保護者等に周知し、理解を得るよう配慮する。</p> <p>【参考】性感染症報告数のグラフ(梅毒)は、厚生労働省ホームページ「性感染症報告数」(https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html)のデータを基に作成。</p> <p>○グループになり、気付いたことを書き出させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">グループで話し合い、ミニホワイトボード等に書かせましょう。</p> 

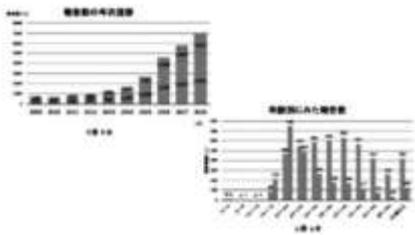
		○いくつかのグループにホワイトボードを使いながら発表させる。
展開	2 学習のねらいを知る。	○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。
	<p style="text-align: center;">性感染症を知り、その予防について考えよう。</p> <p>3 性感染症の疾病概念や種類を知る。</p> <p>性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていること。また、それらの疾病概念や感染経路について。</p> <p>4 性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。</p> <p>性感染症に感染しないための方法や、万が一感染した場合に取るべき行動について。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的接触はしない。 ・正しい知識を持ち、感染しないようにする。 ・怪しいと思ったら、すぐに病院に行く。 <p>病名や症状を重点的に説明するのではなく、性感染症の概念について科学的に説明するようにしましょう。</p> 	<p>○スライドを使い、性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることについて、疾病概念について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染源はウイルス、細菌、原虫など ・感染者の体液に感染源が含まれている。 ・性的接触により人体の粘膜を通して感染 <ul style="list-style-type: none"> ・感染していることに気が付きにくいいため、広がりやすい。 ・日常生活では通常感染しない。 <p>◆【知識・技能】</p> <p>性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。【観察・ワークシート】</p> <p>○グループで話し合いを行い、グループごとに考えをまとめる。</p> <p>◆【思考・判断・表現等】</p> <p>性感染症の予防について、習得した知識を自他の生活と関連付け、疾病等にかかるリスクを軽減する方法を選択しているとともにそれらを他者に伝えている。【観察・ワークシート】</p> <p>科学的根拠に基づき考えられるよう、提示資料等を工夫しましょう。</p>  <p>○性感染症の予防について正しい知識を持つこと、正しい判断力を持つことが大切であることを伝える。</p>
まとめ	5 学習のまとめをする。	<p>○ワークシートに各自でまとめさせる。</p> <p>○性感染症は、身近に迫っている問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを伝え、まとめとする。</p> <p>(本時のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症とは、性的接触によって感染する病気であり、感染していることに気が付きにくいいため、感染が広がりやすい。 ・予防には、感染経路を断つことが大切。

(3) 資料等

① 板書計画

課題①

次の二つのグラフはある感染症の報告者数を表したグラフです。気づいたことを話し合ってみよう。



～本時のねらい～

性感染症を知り、その予防について考えよう。



性感染症で怖いのは…

感染に気づかない

↓

ほかの人に感染を広げる可能性がある

課題②

性感染症に感染しないための方法や、万が一感染した場合に取るべき行動について話し合ってみよう。

～まとめ～

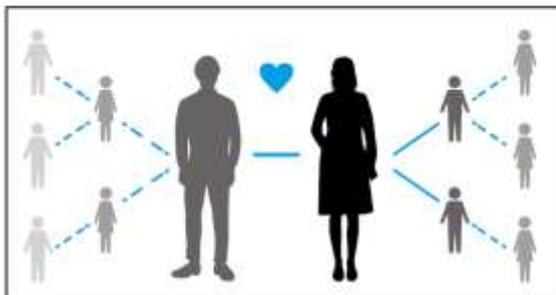
性感染症とは、性的接触によって感染する病気であり、感染していることに気づきにくいいため、感染が広がりやすい。予防には、感染経路を断つことが大切。

② スライド資料

感染症名	主な症状
梅毒	痛みのない腫瘍が性器に形成される 数年～数十年に多様な症状をきたすことがある 妊婦の感染は早産や死産、胎児の以上につながる可能性がある
淋菌感染症・性器クラミジア感染症	淋菌と性器クラミジアは同時に感染していることが多い 男性は排尿痛、尿道のかゆみなど 女性は症状が軽く、無症状なことも多い
性器ヘルペスウイルス感染症	外性器やその周辺のかゆみ、痛み、水ぶくれ、ただれなど 繰り返し再発するが、発病しない場合が多い

治療を受けないで放置すると…

- **不妊症**や**子宮外妊娠**の原因になる
- **胎児へ感染し、流産**や**早産**などの原因になる



③ ワークシート

★今日、学習したことをまとめよう。(知識・技能)

感染症の中でも、性的接触によって、感染する病気を()という。

性感染症は、()ため、感染が広がりやすい。

【考えてみよう】(思考力・判断力・表現力等)

性感染症に感染しないためにはどうしたらよいか。また、万が一感染した場合に取るべき行動は何か。

★今日の授業で一番印象に残ったことを書いてみよう

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

中学校段階は性的な発達も著しく、情緒が不安定になるようなこともあり、様々な心の葛藤や遊びに傾斜する心と結び付き、性的な逸脱行動として表れることもあることから、性に対する正しい理解を基盤に、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、適切な行動がとれるように指導を行うことが大切である。特に、性に関する情報があふれる現代社会にあっては、本題材での学習を踏まえ、自己の行動に責任を持って生きることの大切さや、人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方などと結び付けて指導していくことが有効である。例えば、「思春期の心と体の発育・発達」「性情報への対応」「エイズや性感染症の予防」「友情と恋愛と結婚」などについて、生徒の発達の段階等を踏まえた題材を設定し、資料や専門家の講話等を基にした話合いや討論、専門家の講話を聞くなどの活動の展開が考えられる。特に、性については、個々の生徒間で、発達の段階や置かれた状況の差異が大きいことから、事前に、集団指導として行う内容と個別指導との内容を区別しておくなど計画性を持って実施する必要がある。

(2) 総合的な学習の時間との関連

感染症は世界的な健康課題の一つである。よって、本単元で学習したことを基に、世界に目を向け、世界の福祉について学習を発展させ、より健康について関心を高めることが可能である。

出典：改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引
文部科学省

中学校における展開例



「大切な心と体を守るために」（特別活動）

1. 題 材 名 「生命の安全教育」

※文部科学省ホームページ「性犯罪・性暴力対策の強化について」教材等より

2. 教育課程上の位置づけ

特別活動 学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする
こと。

3. 指導の目標

- （1）心と身体について、他者との適切な距離感を身に付け、相手の気持ちを尊重した意思決定ができるようにするとともに、適切な距離感が守れない場合に取りべき対応について考えさせる。
- （2）性に関する人権侵害（性暴力や性被害）の例やその背景を知り、自他の大切な心や体を守ろうとする態度を養う。

4. 本時の指導

（1）指導のねらい

○中学校での性暴力は、加害者に優位性がある状況での被害が多い。また、身近な IT 端末による性情報へのアクセスも容易になり、SNS 等を介した被害も起こりやすい。一方で、ネット空間でのやり取りは、保護者や教師から見えづらいことや、状況が深刻化するまで被害者が相談しづらいことなどから、その危険性や対策について意図的に話題にし、性の加害者、被害者、傍観者にならないための思考や態度を身に付けさせたい。

（2）学習の流れ

- 「よりよい人間関係」の基本となる「相手との適切な距離感」について考える。
- 「性暴力・性被害」の背景や種類や、起こりやすい状況等について検討し、予防するための方策を考える。
- 加害を見付けた時、被害に遭った時の対応について考える。

（3）指導上の工夫

- 事例を扱う場合は、生徒の生活実態に合わせた身近なシチュエーションにするなど、参考資料を改編しながら生徒の実態に応じた組み立てとする。
- 教師からの一方向の情報提示ではなく、教師と生徒、生徒同士の双方向での対話が生まれるよう協議やワーク等を取り入れる。（男女共学で行う場合には、グループ分けにあたり充分配慮する。）

（4）指導上の重点・配慮事項

- 生徒の中には、性の加害者、被害者、傍観者を経験している者もいる可能性があることを考慮し、授

業の中で二次被害を受けることがないよう、配慮する必要がある。当該生徒を把握している場合には、事前に授業への参加方法について十分に相談等をする。

○授業の内容により、途中で気分が悪くなったり、授業後にフォローが必要となったりする場合を想定し、校内の関係者（学年主任、養護教諭、教育相談コーディネータ、スクールカウンセラー等）との連携を図る。

5. 授業展開例

 : ねらい : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容やねらいを知る。 ・思春期にある悩みや不安に向き合い乗り越えるためにも、正しい知識や危機管理能力が必要であることを確認する。 	<p>○学習中に気分が悪くなって退出したい場合は、T2 に申し出て良いこと等を伝える。</p>
	<p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">より良い人間関係に必要な「適切な距離感」について、様々な視点から考えよう。</p> <p>○より良い人間関係のベースに「適切な距離感」があることを理解する。</p>	<p>○距離感の種類を例示することで、目に見えない人との距離感の概念について伝える。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>距離感が守れていないときにどのような感情が起こるのか、また、そうした場合にどのようにすればよいか考えることを通し、自他の大切な心と体を守ることの大切さを理解する。</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・性暴力について知る。 <p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">性暴力がどのような場面や状況で起こりやすいかについて意見交換し、予防するための方策を考えよう。</p>	<p>○性暴力にはどのようなものがあるか問いかけ、生徒に考えさせる。</p> <p>○事例は生徒の実態に応じて準備し、登場人物の同世代とすることで性暴力が身近な問題であることに気付かせる。</p> <p>○SNS等のネット環境を通して、性暴力が起こるリスクが高いことや、性別に関係ないこと、非対等な人間関係が性暴力につながる可能性があること、等を共有する。</p>
<p style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">SNSやデートDV等に関する1事例について、ケース学習をしよう。</p> <p>(事例は学級の実態に応じたものとする)</p> <p>○グループやペアで共有し、背景や対処方法について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性暴力を見聞きしたり、被害に遭ってしまったりしたときの対応を身に付ける。 ・学習のふり返りを記入する 	<p>○複数生徒の意見発表</p> <p>○被害に遭った友人から相談されたり、自分自身が被害に遭ったりした場合に、相談できる機関や方法について共有する。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>性の加害者、被害者、傍観者にならないための考え方や態度を養うために、引き続き考えていくことを伝える。</p> </div>	

※参考資料等

- ① 文部科学省 生命の安全教育 指導の手引き（中学校）
- ② 同 中学生（1～3年）向け 教材例

6. 他教科等との関連

特別の教科 道徳

[自主、自律、自由と責任] [節度・節制]・[生命の尊さ]





～コラムコーナー～

生理の貧困について

経済的な理由で生理用品を購入できない女性や女の子がいるという「生理の貧困」が世界中で問題になっています。神奈川県教育委員会では、県立学校の生徒の現状を把握するため、県立学校 12 校の女子トイレに生理用品を配備し、アンケート調査を行いました。

- ① 調査対象 生理用品を女子トイレに配備したモデル校の女子生徒
- ② 回答数 高校生 1,745 人、特別支援学校生（高等部）70 名
- ③ 調査期間 令和3年7月12日（月）から7月21日（水）までの10日間
- ④ 調査結果

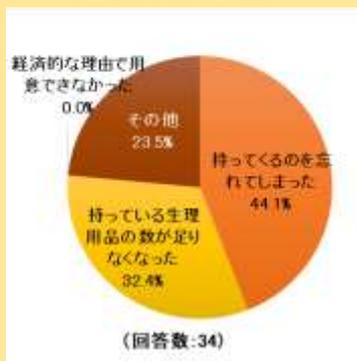
	トイレに設置した生理用品を利用したか		今後も利用したいと思うか	
	利用した	しなかった	思う	思わない
高校生	711人 (40.7%)	1,034人 (59.3%)	703人 (98.9%)	8人 (1.1%)
特別支援学校生	23人 (32.9%)	47人 (67.1%)	18人 (85.7%)	3人 (14.3%)

生理用品が手元になくて困った理由は

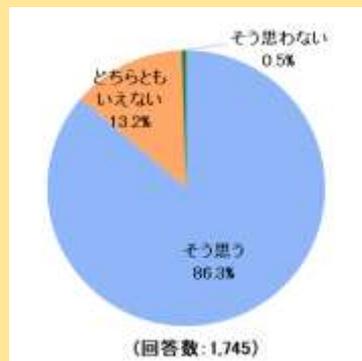
<高校生>



<特別支援学校生>



トイレに生理用品が置いてあることで、安心して在校時間を過ごせますか（高校生だけの質問）



- ・ 調査に回答した生徒の約4割が、トイレにおいた生理用品を利用し、利用した生徒の内8割以上が継続して利用したいと答えました。また、約8割の女子生徒が、生理用品が手元になくて困った経験があり、高校生では、経済的な理由で生理用品を用意できなかった生徒がいることがわかりました。
- ・ 8割以上の女子生徒は、トイレに生理用品が置いてあることで、安心して在校時間を過ごせると考えていることがわかりました。

④ 調査結果から

今回の調査で、生理用品が手元にない場合、途中で買いに行く、あるいは早退すると回答した生徒がいたことから、生理用品を所持していないために、安心して在校時間を過ごすことができなかった生徒もいるようです。安心して学校生活を送れるよう必要な支援が求められています。

また、経済的な理由で生理用品を購入できないという問題の背景には、家庭の経済状況の問題だけではなく、虐待やネグレクトなど、子どもが保護者に相談できないような事情が関係している場合があるため、児童・生徒の状況を把握することも大切です。

高等学校における展開例



第1学年「現代社会と健康」現代の感染症とその予防 (保健体育科 科目 保健)

1. 単元名 現代の感染症とその予防

2. 単元の目標

- (1) 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解することができるようにする。(知識)
- (2) 現代の感染症とその予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

小学校体育科保健領域で、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について学習している。また、中学校保健体育科保健分野では、病原体が主な要因となって発生すること、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを学習している。それらを踏まえて、ここでは、感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを学習する。また、感染症の予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにすることが必要であることを学ぶ。

本単元では、感染症の予防について理解させることにより、生涯を通じて感染症の予防に必要なことを考えることができるようにしていきたい。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆現代の感染症				<p>○感染症について、様々な背景によって流行に影響していること、新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られること、さらに新たな感染症の出現について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の種類と歴史について確認する。 ・学習のねらいを知る。 ・新興感染症や再興感染症の発生や流行について知る。 ・感染症が生活に与える影響について話し合う。 ・本時の学習のまとめをする。
第2時	◆感染症の予防				<p>○感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・学習のねらいを知る。 ・感染症予防のための社会的対策及び個人の取組について知る。

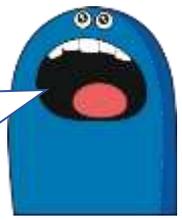
				<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の情報が溢れている世の中で、予防法等の情報を正しく選択するために必要な内容について知る。 ・本時の学習のまとめをする。
第3時	◆感染症の予防②		○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。 ○交通網の発達により、短時間で広がりやすくなっていること。 ・新型コロナウイルス感染症の流行について、資料から背景を想像する。 ・学習のねらいを知る。 ・新興感染症の感染リスクを軽減するための取組について整理し、意見を個人の取組と社会的な対策に分類する。 ・今後、これまで認識されていなかった感染症が発生した場合、自分がやるべき感染リスクを軽減するための予防行動をまとめる。 ・本時の学習のまとめをする。
第4時 (本時)	◆エイズ・性感染症		○ ○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について。 ・学習のねらいを知る。 ・エイズの発生動向を踏まえ、原因と人々の意識について知る。 ・性感染症の原因を理解し、現在の状況を知る。 ・エイズ及び性感染症の予防に対して、個人の行動選択や社会の対策について理解する。 ・HIVに感染しないための予防方法について考え、説明する。 ・本時の学習のまとめをする。

5. 展開例(4/4)

(1) 本時の目標

- ・エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解できるようにする。(知識)
- ・感染症の予防について、学習したことや健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>1. 本時の学習課題について考える。</p> <p style="background-color: #FFDAB9;">病気「X」は何だろう。</p> <p>病気「X」は何だろう</p> <p>1 病気「X」は、体の抵抗力を弱らせます。</p> <p>2 病気「X」は、今のところ完全に治す薬はありません。</p> <p>3 病気「X」は、発症まで10年かかることもあります。</p> <p>4 病気「X」は、新規報告者数が年々増加傾向です。</p> <p>5 病気「X」は、20代と30代の若者層に多いです。</p> <p>6 病気「X」は、血液や性的接触により感染します。</p> <p>7 病気「X」は、予防することができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の提示する内容から病気「X」について考えることにより、本時の学習内容に興味をもって参加できるようにする。 ○思いつく病名について、自由に発表させる。 ○病気「X」は、エイズであることを知らせる。 ○エイズは正しい知識をもち、適切な注意を払うことにより、感染から身を守ることができる病気であることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今、エイズについて学ぶことは、大変重要なことであることを伝えましょう。</p> </div> 

2. 本時のねらいを知る。

○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。

エイズとその予防について考えよう。

3. エイズの疾病概念、感染経路について理解する。

エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であること。エイズの疾病概念と感染経路について。

○エイズはHIVというウイルスの感染によって起こる病気であること、三つの感染経路及び発症まで10年以上かかる場合があることを説明する。

○HIVの感染力や他人に感染させる可能性について考えさせる。

○医療の進歩により、体内のHIVの増殖を抑える治療薬が開発され、普通の生活ができるようになっているが、完全に治す薬は現在ないことを伝える。

○資料を提示し、日本のHIV感染者とエイズ患者の新規報告数から日本の動向を確認する。

4. 日本のHIV感染者（エイズ患者含む）の動向を知る。

日本のHIV感染者数（エイズ患者を含む）、感染が多い感染経路、感染が多い年齢層について考えてみよう。

・資料を基に考える。

エイズの主な感染経路は性的接触であること。エイズ患者は年々増えており、若者に多く、社会問題になっていること。

○日本においては、一日平均1.3人がエイズを発症し、一日平均3人がHIVに感染していることを伝える。

○資料から約9割を占める感染経路を予想させ、答えについて、自由に発表させる。

○前時で学習した性感染症の学習を踏まえながら、性的接触による感染がほとんどであることを確認する。

○感染者の多い年代を予想させる。

○HIV感染者のおよそ2～3割が20歳代及び30歳代の若者層であることを確認し、自分たちも人ごとではないことを知らせる。

○ワークシートを配布し、これまでの学習を基に、HIVに感染しないための予防方法について、自分の考えをワークシートに記入させる。

○個々に記入後、4名程度のグループで発表し合わせ、その後幾つかのグループに発表させることにより、考えを深められるようにする。

5. 本時の学習を基に、エイズの予防方法について考える。

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しなさい。

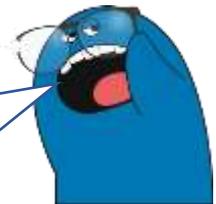
<予想される反応>

・HIVやエイズについての正しい知識をもって、感染しないようにする。

・エイズは、HIVに感染して発病する病気なので、感染経路である性的接触をしない。

・HIVに感染しているか、保健所で匿名・無料の検査を受けて、早期発見・早期治療につなげる。

グルーピングや雰囲気作りを工夫し、個々の意見を大切にしながら、活発な話し合い活動を促し、より多くの意見を引き出しましょう。



◆【思考・判断・表現】

感染症の予防について、学習したことや健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付いたり、選んだりするなどして、それらを他者に伝えていく。【観察・ワークシート】

○エイズや予防について正しい知識をもつこと、正しい判断力をもつことが大切であることを伝える。

○主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることにも触れる。

6. その他の性感染症

まとめ

6. 本時の学習のまとめをする。
・本時を振り返るとともに、教師のまとめの話を聞く。

エイズは、薬の開発のおかげで先進国では「死の病気」ではなく「生涯付き合っていく病気」になっています。

しかし、現在、HIVを体内から完全に排除できる治療法はありません。これまでの授業で『知識のワクチン』を手に入れました。

正しい判断力をもって、HIV・エイズから自分やパートナーの体を守っていきましょう。

予防方法を身に付けることが必要であること。

○ワークシートの記入から、知識・理解の定着を確かめ、必要に応じて指導する。

○HIVの感染は、感染経路を遮断することで予防できることを確認する。

○エイズは、身近に迫っている問題であり、予防方法を身に付けることが必要であることを伝え、まとめとする。

エイズは無用に恐れる病気ではないことや、今後の生活に希望がもてるメッセージを伝えましょう。

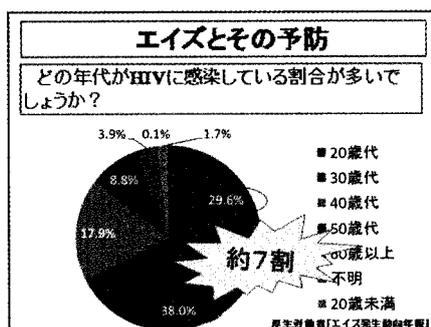
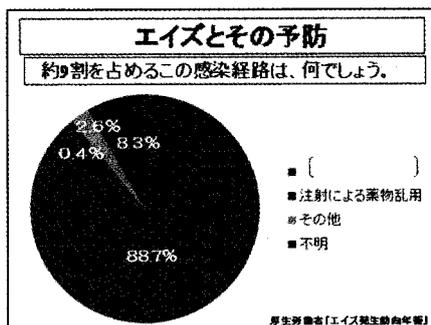
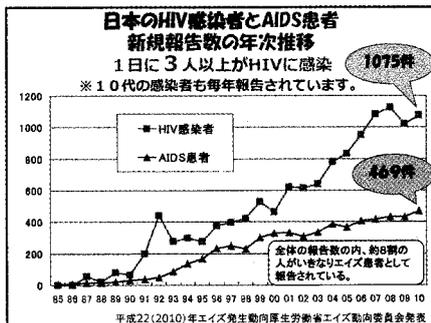


◆【知識・技能】

エイズ及び性感染症について、その原因及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。【観察・ワークシート】

(3) 資料等

【資料】



【ワークシート】

「健康な生活と疾病の予防」ワークシート (エイズの予防)

3年 組 No. 氏名

20代のあなたが考えるHIVに感染しないための予防方法を「HIV」の言葉を使って、説明しよう。

【自分の考え】

【友達の考え】

→付けたし・直し

【まとめ】

エイズの病原体(感染源)は、()であり、その主な感染経路は、()である。その増加傾向と若者の感染が多いことが問題になっていることから、私たちは()を身に付ける必要があります。

感染症の予防3原則とは、①()をなくすこと、②()を遮断すること、③()を高めることです。

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

本単元の『「現代社会と健康」性感染症・エイズとその予防』は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)オ「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「感染症の予防を考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への意欲付けを図ることができる。

(2) 総合的な探究の時間との関連

総合的な探究の時間において例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、健康：心身の健康とストレス社会の問題（健康）」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での『「現代社会と健康」性感染症・エイズとその予防』に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

参考：改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引

参考：「生きる力」を育む中学校保健教育の手引

文部科学省

高等学校における展開例



第1学年「青年期の自立と家族・家庭」(家庭科 科目 家庭基礎)

1. 単元名 「青年期の自立と家族・家庭」

2. 単元の目標

- (1) 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。(知識及び技能)
- (2) 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できるようにする。また、男女が協力して家庭を築くことの意義や、現代の家族・家庭の機能や特徴について歴史的、文化的、社会的変化との関連から理解を深め、考察できるようにすることをねらいとしている。その際、自立した生活を営むためには、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることを認識できるようにする。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。

5. 指導計画

時	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容・学習活動
第1時	◆青年期の自立			○	○青年期の発達課題である自立や生活課題に対応した生き方を考え、意思決定の重要性について理解し、これからの自分について考える。 ・自分の日常生活を振り返り、自立について自己理解を深めるために自立度チェックをする。 ・自立するために必要なことを考える。 ・多様な価値観があることに気づき、意思決定を行う重要性について理解する。
第2時	◆家族・家庭とは何だろう		○		○時代とともに変化する家族・家庭の特徴や機能について理解し、現代の家族・家庭に関する課題について考察する。 ・家族には明確な定義はないため、人によってイメージする範囲は多様であることを理解する。 ・現代の家族が抱える課題について、社会の変化と関連付けて考える。
第3時	◆家族・家庭と法律	○			○家族・家庭に関する法律や制度について理解する。 ・旧民法(明治民法)と現行民法の違いや、時代に応じた民法の改正について理解する。
第4時 (本時)	◆これからの家庭生活と社会		○	○	○生活していくために必要な家事労働と職業労働の特徴、男女の働き方の現状を理解し、男女が協力して家庭や社会を築く方法を考える。 ・性別役割分業について考える。 ・家庭生活や社会での男女の協力について知る。 ・ワーク・ライフ・バランスを意識した自分の生き方を考える。

6. 展開例 (4 / 4)

(1) 本時の目標

- ・男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価										
主な学習内容・学習活動	男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	<p>○授業の導入時に結果を示せるよう、家事育児のタスク表の色分けについて、ICTを活用して配信し事前に実施させる。夫や妻が担当する家事労働の特徴や傾向を挙げさせることにより問題点に気付かせる。</p> <p>※家事育児のタスク表 日常で行う家事の具 体を表にまとめたもの</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">朝</td> <td>カーテンを開ける</td> <td>ベッドを整える</td> <td>新聞を取る</td> </tr> <tr> <td>お茶を作り置きする</td> <td>献立を考える</td> <td>宅配食材を注文する</td> </tr> <tr> <td>ゴミを集め、分別する</td> <td>ゴミを捨てる</td> <td>哺乳瓶を消毒する</td> </tr> </table> <p>(例) 時間帯別に示したものの一部</p>	朝	カーテンを開ける	ベッドを整える	新聞を取る	お茶を作り置きする	献立を考える	宅配食材を注文する	ゴミを集め、分別する	ゴミを捨てる	哺乳瓶を消毒する
	朝			カーテンを開ける	ベッドを整える	新聞を取る						
お茶を作り置きする		献立を考える		宅配食材を注文する								
ゴミを集め、分別する		ゴミを捨てる	哺乳瓶を消毒する									
生活を支える家事労働と職業労働についての特徴を確認する。												

<p>性別役割分業意識について、クラス内の意識と内閣府の調査の結果をみて、現状を理解する。</p>	<p>○内閣府の意識調査から男女協力への意識が高まる傾向がある一方、現状では男性の育児休業の取得率が低いことや、20～30代の女性の労働力人口比率が低くなっているなどのことから、家事の負担が女性に偏りがちであることが読み取れることを伝える。</p>
<p>ある家族の生活時間の例について、それぞれの立場から考えた課題を見つけ、改善点を考える。</p> <p>男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、共に家庭生活と社会生活を両立するために大切なことは何かをグループで考察し、発表する。</p>	<p>○「共働き夫婦と子供」の家族の設定で、各グループ3～4人でロールプレイを実施する。親や子供の役になって、自分の希望する時間の使い方と役割分担の工夫について考えさせる。</p> <p>○ Google Jamboard を使用し、各自の意見を同時に書き込みグループの集約の時間短縮をしたり、発表時に画面共有して、まとめた内容を提示したりできるようにする。</p>
<p>各班の発表を踏まえて、改めて個人で男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことをワークシートに記入し提出する。</p>	<p>○ワーク・ライフ・バランスの視点で考えることを伝える。</p> <p>◆【思考・判断・表現】 男女が協力して家庭や社会を築くことの意義や重要性について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p> <p>◆【主体的に学習に取り組む態度】 単元を通して学んだことを、どのように生活に生かしていくか考えようとしている。</p>

(3) 資料等

内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」、総務省「労働力調査」
厚生労働省「保育士の現状と主な取組」、「育児休業取得率」

高等学校における展開例



第2学年「生涯を通じる健康」生涯の各段階における健康 (保健体育科 科目 保健)

1. 単元名 生涯の各段階における健康

2. 単元の目標

- (1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解できるようにする。(知識)
- (2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを説明することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明するなどの学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

生涯を通じる健康については、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める指導を行う単元である。生涯の各段階においては、健康に関わる様々な課題や特徴があることから、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解させるとともに、生涯の各段階で、労働における健康課題の解決に向けて思考・判断・表現できる資質・能力を育成する必要がある。

そのため、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があること、また労働の形態や環境の変化に伴った健康及び安全の課題があること、それらを踏まえ、自他の健康管理、安全管理及び環境づくりを行う必要があること、労働に関わる社会資源などを適切に活用することなどを中心に学習していく。

なお、結婚生活と健康では、「妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生殖に関わる機能については、必要に応じて関連付けて扱う程度とする」と説明が新たに加わった。

4. 単元計画

	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習内容 ・ 学習活動
第1時	◆思春期と健康				<p>○思春期における心身の発達や性的成熟に伴い健康課題が生じること、自分の行動への責任や異性への理解や尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処が必要であること。</p> <p>・ 思春期の定義を確認する。 ・ 学習のねらいを知る。 ・ 思春期の健康に関わる問題について確認する。 ・ 思春期の性に関わる課題を考える。 ・ 自分の行動への責任や異性への理解や尊重する態度、性に関する情報等への適切な対処について知る。 ・ 本時の学習のまとめをする。</p>

第2時 (本時)	◆結婚生活と健康	○	○	○結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること、結婚生活を健康に過ごすには自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の保健・医療サービスの活用が必要であること、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について。
				<ul style="list-style-type: none"> ・初婚年齢と初産年齢の推移について、傾向を確認する。 ・学習のねらいを知る。 ・受精・妊娠・出産とそれに伴う健康課題を確認する。 ・結婚生活における各健康課題の解決方法を、グループ内で意見を共有しながら話し合い、発表する。 ・本時の学習のまとめをする。
第3時	◆加齢と健康	○	○	○中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うことなどが関係すること、高齢期には、加齢に伴い、変化する心身の機能や形態には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まり、健康の回復が長期化する傾向にあること、高齢社会では、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。
				<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを知る。 ・加齢に伴う健康課題について確認する。 ・中高年期を健康に過ごすための個人の取組について確認する。 ・高齢社会における社会的対策について確認する。 ・本時の学習のまとめをする。

5. 展開例(2/3)

(1) 本時の目標

- ・結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解できるようにする。(知識)
- ・結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 □ : ねらい ■ : 学習内容 ■ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	1 初婚年齢と初産年齢の推移について傾向を確認する。 初婚と初産の年齢には、どのような傾向があると思いますか。 <予想される反応> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚年齢(初婚年齢)が高くなっている。 ・出産(初産)年齢が高くなっている。 	○資料「厚生労働省_人口動態統計:平均初婚年齢・母親平均出生時年齢推移」で、結婚生活において出産を考える場合、妻の初婚年齢と出生時年齢にはどのような関係があるかを、個人で確認させ、その後、生徒間で共有させる。 ○妻の晩婚化は出産(初産)年齢の上昇に大きく影響していることを説明する。
展開	2 学習のねらいを知る。 受精、妊娠、出産に伴う健康課題を理解し、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要かを考えてみよう。	○本時の内容を説明し、ねらいを理解させる。

3 受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解する。

晩婚化が進む中、結婚意志がある未婚者が希望する子ども数が減少傾向にあるのはなぜでしょう。この背景には、心身の健康に対するどんな不安、心配や悩みがあると思いますか。

<予想される反応>

- ・つわりや陣痛が怖い（いやだ）
- ・早産・流産
- ・子どもが欲しいけれど、妊娠できない
- ・高齢出産はリスクが高い
- ・夫婦のストレスの解消法
- ・信頼できる病院があるか

結婚生活において、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること。

○資料「国立社会保障・人口問題研究所_第15回出生動向基本調査（2015年）：「子どもについての考え方」をもとに発問する。

○心身の健康に限定することを説明し、個人で予想させ、その後、生徒間で共有させる。

○医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳半ば頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されていることを説明し、結婚生活における受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わることを押さえる。

◆【知識・技能】

結婚生活における受精・妊娠・出産とそれに伴う健康課題には年齢や生活習慣などが関わること、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の保健・医療サービスの活用が必要であること、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について、理解している。（観察・ワークシート）

思春期と健康で学習した内容「思春期の性に関わる課題」を振り返りながら、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について触れることも重要です。



4 母子保健法から、妊娠・出産に関わる健康課題の解決方法を考え、グループ内で意見を共有しながら話し合い、発表する。

我が国の母性・乳幼児の健康の保持・増進を目的として制定された「母子保健法」には、妊娠した者は、速やかに妊娠の届出をしなければならないと規定されています。

提出する物は何だと思いますか。

<選択肢>

- ・住民票記載事項証明書（不正解）
- ・妊娠証明書（不正解）
- ・妊娠届出書（正解）

また「母子保健法」には、妊娠の届出をした者に対して、母子健康手帳を交付しなければならないと規定されています。交付場所はどこだと思いますか。

○ここまでの学習を受け、我が国の妊娠・出産や育児に対する政策や、地方自治体が提供するサービスを学ぶことを伝える。

○提出する物、交付場所の順で生徒に挙手させたうえで、それぞれで解答を行う。

各自の挙手後にグループ内の意見交換を行うなど、自分以外の多様な考えを共有することも大切です。



○交付には妊娠届出書が必要であること、この妊娠届は自己申告制であるが、医師の診察を受けていない者には市区町村が妊娠した者に対して受診を指導することを説明する。

○妊娠した者が住んでいる市区町村長に妊娠届出書を提出すると、その市区町村から母子健康手帳が交付されるとともに、必要な保健指導を受けることができると説明する。

<選択肢>

- ・産婦人科医（不正解）
- ・都道府県（不正解）
- ・市区町村（正解）
保健福祉センター、母子保健センター、
〇〇市：〇〇すこやか相談所など

最近では、自治体によっては父子手帳も発行されていることなどに触れて、夫の妊娠・出産への理解と育児への参加・協力の重要性について説明すると良いでしょう。



現在は、市町村が交付する母子健康手帳の記録をデジタル化することで、一人一人に最適な情報を配信し、家族の積極的な健康管理を促し、妊娠・出産・育児期を継続的にサポートできるアプリがあることにも触れるとよいでしょう。

これまでの学習で理解した、結婚生活における受精・妊娠・出産に伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを緩和したり、支援したりするものには、どんなものがあると思いますか。

<予想される反応例>

- つわりや陣痛が怖い、早産・流産、不妊、高齢出産など
- 医者などの診察や専門家の助言
- 夫婦のストレスの解消法
- 話し合い、親や友人への相談
- 信頼できる病院
- 関係・支援サイトでの情報収集や家族への相談

結婚生活において、受精・妊娠・出産とそれに伴う心身の健康に対する不安、心配や悩みを軽減し、健康に過ごすためには、誰が、どこが、どのように取り組めば良いかを考えてみよう。

<予想される反応例>

- 妻
 - ・体調管理をする
 - ・飲酒や喫煙をひかえる
 - ・困った時には相談したり受診したりする
- 夫など
 - ・喫煙をひかえる
 - ・妻の相談を聞く
 - ・妻に協力する
- 市区町村
 - ・困っている夫婦をサポートする
 - ・健診や相談窓口の情報をチラシやホームページで提供する

○母子健康手帳の内容には、妊娠や出産の経過から、小学校入学前までの健康状態、発育、発達、予防接種などの記録といった全国的に共通している部分と、妊娠中の注意点など、市区町村の任意で書かれる部分とがあることを説明する。

○妊娠届出書には、妊婦の生年月日を記入する欄が必ずあり（若年妊娠や高齢出産を把握できる）、また、多くの自治体の様式では、これまでの妊娠の結果を記入する欄もあるなど、この手続きには、妊娠した者、市区町村の双方に責任を伴うものであることにも触れる。

○付箋紙とワークシートを各グループに配布する。（付箋紙は1人20枚程度）

○配布後に、まずは自分の考えを付箋紙に書くこと、次に、各自の考えを班内で共有すること、他の人の意見を否定したり、自分の意見にしたりしないことを説明する。

ここでは、各自がここまでの学習で理解したことや思いつくことを、より多く書き出すことが重要で、可能性や良し悪しにとらわれないことを伝えましょう。

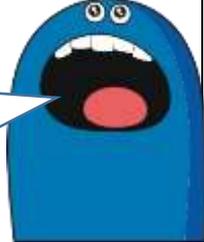


○各自の意見を出し合い、次の要領で、班内で共有させる。

- ・自分の意見にはなかった意見は、自分のワークシートに記入する。
- ・共有する中で思いついた意見をあらたに加えてもよい。

○各班の発表者は、話し合いの内容を簡潔にまとめ、班でそれらを「責任」「人間関係」「支援」「保健・医療サービス」の4つに分類し、班内で確認させる。その際、分類できないものは「その他」とすることを説明する。

○市区町村の広報（ホームページ）から、健康診査などの保健・医療サービスが行われていること、その利用と活用必要性について説明する。

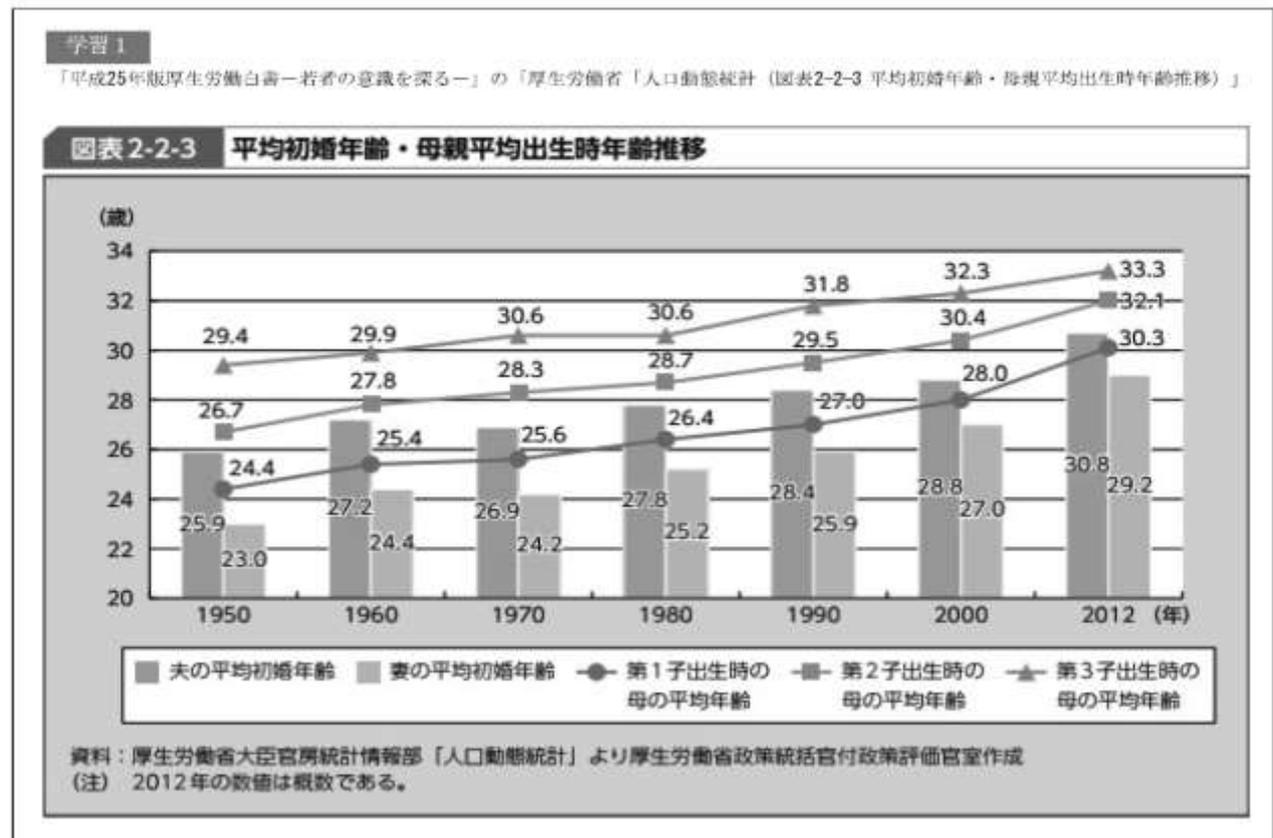
	<p>結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感などや母子の健康診査等の活用が必要であること。</p>	<p>○結婚生活を健康に過ごすためには、妻だけでなく、夫の妊娠・出産への理解と育児への参加・協力、周囲に相談や周囲の協力、地域・社会の妊婦への理解や環境づくり、医療・福祉の利用、保健所などの公的サービスの活用が重要であることを説明する。</p> <div data-bbox="826 409 1230 573" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>結婚生活において、心身の発達や健康の保持増進の視点から理解できるよう指導しましょう。</p> </div>  <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>結婚生活と健康について、自他や社会の課題の解決方法を考え、それらを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している（観察・ワークシート）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ</p>	<p>5. 本時の学習のまとめをする</p> <p>本時で学んだことを振り返り、妊娠・出産をむかえる夫婦が、結婚生活を健康に過ごすためには何が必要であるかを自分の言葉でまとめてみよう。</p>	<p>○学習内容を振り返り、学んだことの定着を図る。</p> <p>○学習活動を促す事例として、スポーツ選手の結婚、妊娠・出産や子育てについて、トピックスを紹介しながら、年齢や生活習慣の多様性と社会的課題について触れる。</p> <p>○机間指導中に、生徒がワークシートにまとめている内容を確認し、本時のまとめの中で活用する。</p>

(3) 資料等

① 板書計画

<p>本時のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受精，妊娠，出産に伴う健康課題を理解し，結婚生活を健康に過ごすためには何が必要かを考えてみよう。 	
<p>1 初婚・初産の傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚年齢（初婚年齢）が高くなっている。 ・出産（初産）年齢が高くなっている。 <p><u>晩婚化は出産（初産）年齢の上昇に大きく影響している</u></p>	<p>3 母子健康手帳</p> <p>○市区町村（正解）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センター，母子保健センター <p><u>交付には妊娠届出書が必要</u></p>
<p>2 受精，妊娠，出産とそれに伴う健康課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学的には男性，女性ともに妊娠・出産には適した年齢がある ・30歳代半ば頃から，年齢が上がるにつれ様々なリスクが高くなる ・男性も加齢とともに妊娠率が低下する ・経済的理由、職業の選択や女性アスリートの活躍など 	<p>4 結婚生活を健康に過ごすために必要なこと</p> <p>○責任</p> <p>○人間関係</p> <p>○支援</p> <p>○保健・医療サービス</p>
	<p>5 まとめ</p>

② 資料（図表）



学習 3

「平成25年版厚生労働白書―若者の意識を探る―」の第1部-第2章-第3節-5-(2)年齢と出産リスク等

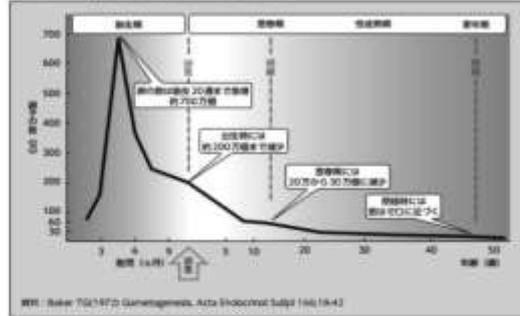
(2) 年齢と出産リスク等

医学的には男性、女性ともに妊娠・出産には適した年齢があることが指摘されており、30歳代半ば頃から、年齢が上がるにつれて様々なリスクが相対的に高くなるとともに、出産に至る確率が低くなっていくことが指摘されている。

男性の精子は思春期以降1日に数千万個作られ、日々、新しい精子が生まれるが、女性の卵子は、出生後新たに作られることはなく、加齢とともに質、量ともに低下する(図表2-3-23)。このため、女性の自然に妊娠する力は30歳頃から低下する。さらに、35歳前後からは流産率も上昇するほか、妊娠高血圧症候群、前置胎盤の母体と胎児に与えるリスクなど、妊娠・出産のリスクも高くなる。また、男性も加齢とともに妊娠率が低下することが指摘されている。

年齢を重ねても若々しさを保つ人が増えていたり、高齢出産のニュースに触れるなどすると「いつでも子どもは持てる」と思う人もいるかもしれないが、年齢が上がると、妊娠・出産に関するリスクが上昇するとともに、妊娠しにくくなることが医学的にも明らかになってきている。

図表 2-3-23 女性の年齢の変化による精子の数の変化



学習 4

市

母子健康手帳

平成 年 月 日交付

保護者の氏名 _____

子の氏名 _____ (第 子)

No. _____

保護者の記録【1か月の頃】

年 月 日 で1か月になりました。

- 裸にする手足をよく動かしますか。 はい / いいえ
- お乳をよく飲みますか。 はい / いいえ
- 大きな音にビクッと手足を伸ばしたり、泣き出すことがありますか。 はい / いいえ
- おへそはかかれていますか。
(じっくりしている時は医師にみてもらいましょう。) はい / いいえ
- 子育てについて気軽に相談できる人はいいますか。 はい / いいえ
- 子育てについて不安や困難を感じることはありますか。 いいえ/はい/何ともいえ

成長の様子、育児の心配、かかった病気、感想などを自由に記入しましょう。

1か月児健康診査

(年 月 日実施・ 月 日)

体重	身長
胸囲	頭囲
栄養状態	栄養法
健康・受診歴	
特記事項	
施設名又は担当者名	

☆次の健康診査までの記録(自宅で測定した身長・体重も記入しましょう)☆

年月日	月齢	体重(g)	身長(cm)	特記事項	施設名又は担当者名

6. 他教科等との関連

(1) 特別活動との関連

本単元の「結婚生活と健康」は、特別活動のホームルーム活動の内容項目(2)イ「男女相互の理解と協力」と関連付けて指導することが考えられる。例えば、題材を「家庭や地域社会における男女相互の理解と協力について考えよう」と設定し、本単元で身に付けた知識をもとにホームルーム内で話し合い、個人としての意思決定を経て、実践への意欲付けを図ることができる。

(2) 総合的な探究の時間との関連

総合的な探究の時間において例えば、生徒の興味・関心に基づく課題として、「生命の尊厳と医療や介護の現実(生命・医療)」を探究課題として設定し、横断的・総合的な学習として、保健での「結婚生活と健康」に関する学習内容との関連を図った課題の解決や探究活動を行うことが考えられる。

出典：改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引
文部科学省

高等学校における展開例



第2学年「法的な主体となる私たち」(公民科)

1. 単元名 「法的な主体となる私たち」

2. 単元の目標

- (1) 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。(知識及び技能)
現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 法や規範の意義及び役割について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

法や規範の意義及び役割については、法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解できるようにする。また、法の支配を実現するために、法の一般性、明確性など、法が公正なルールとして備えるべき特質を理解し、法の適切さを考える視点を身に付けるとともに、公共的な空間を作る自立的な主体として、法の内容を吟味して、よりよいものにしていこうとする努力が大切であることを理解できるようにする。

その際、「法や道徳などの社会規範がそれぞれの役割を有していることや、法の役割の限界についても扱うこと」が必要であり、人々の間で社会規範として機能するものには、法以外にも、道徳や宗教などがあり、主体的な個人の内面規律や自立、個の確立を重視することを特色としていることを理解できるようにし、法と道徳や宗教の関係について留意して、法の役割の限界についても理解できるようにすることが大切である。



4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	法や規範の意義及び役割について、よりよい現代社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5. 指導計画

時	◆学習内容	知	思	態	おもな学習活動
第1時	◆私たちと法	○			<p>○法とは何かについて理解するとともに、望ましい法の在り方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法について考える時、法の目的は正当か目的を達成する手段は適切かを考えることが大切であることを理解する。 ・法の目的やルールをつくる時の条件を理解するとともに、法の評価と法の限界について考察する。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>教師が作ったクラスの新しいルールをいくつか生徒に提示し、女子生徒と男子生徒両方に受け入れられるものであるかどうか評価させ、法における性差の平等について考察する。</p> </div>
第2時	◆法と基本的人権	○			<p>○憲法の目的について理解し、自他の権利の衝突をどう調整するかについて、公共の福祉の視点を意識しながら学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法体系における憲法の目的や役割、日本国憲法が保障する基本的人権の概要について理解する。 ・権利の衝突があることに気付かせ、その調整について考察する。
第3時	◆自由に生きる権利と法・規範	○			<p>○自由権とそれに係る法令や制度について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法が保障する人身の自由、精神の自由、経済活動の自由及びそれらの権利を具体的に保障するための法令や制度について理解する。



第4時 (本時)	◆ 平等に生きる権利と法・規範		○	<p>○法の下での平等について理解するとともに、望ましい平等の在り方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法が保障する平等権及び平等権を具体的に保障するための法令や制度について理解する。 ・法の平等に係る現実社会の諸課題について考察する。 <p>性的志向や性自認に対する偏見や差別があること、性別の変更及び結婚を可能にする法律（性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律）が制定されたことを理解する。</p> <p>民法における夫婦同姓を合憲とした最高裁判例を紹介した上で、選択的夫婦別氏（別姓）制度について考察する。</p>
第5時	◆ 安全で豊かに生きる権利と法・規範		○	<p>○社会権及び憲法に直接の規定がない新しい人権について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会権、環境権、プライバシーの権利、自己決定権について理解するとともに、これらの人権が登場した背景について考察する。
第6時	◆ 法をよりよいものにするための権利		○	<p>○世論や政治に参加し、法をよりよいものにするために、どのような人権が保障されているのかを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参政権、国務請求権について理解するとともに、国民が主権者として正しい判断をするための知る権利について理解する。
第7時	◆ さまざまな契約と法		○	<p>○なぜ契約が生まれ、契約を守ることが大切なのかについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の概念と契約自由の原則について理解する。 ・成年年齢の引下げに伴い、18歳になったら可能となる契約行為について理解するとともに、高校生の消費者被害の危険性について考察する。
第8時	◆ 消費者の権利と責任		○	<p>○消費者に関する法律は、契約においてどのような考え方を重視しているかについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者主権の概念と消費者を守る消費者基本法を中心とした法令や制度を理解する。
第9時	◆ 裁判所と司法		○	<p>○司法はなぜ必要なのか、権利の衝突を公正かつ慎重に調整するためにどのような制度があるのかについて理解するとともに、司法の限界について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司法権の独立及び日本の裁判制度について理解するとともに、裁判員制度の意義と課題について考察する。 ・統治行為論に基づく裁判所による憲法判断の回避の是非について考察する。
第10時	◆ 国民の司法参加		○	<p>○国民の司法参加について、日本及び海外の制度を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民事裁判及び刑事裁判、日本の裁判員制度について理解するとともに、裁判員制度の意義と課題について考察する。

6. 展開例(4/10)

(1) 本時の目標

- ・法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現する。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	憲法が保障する平等権及び平等権を具体的に保障するための法令や制度について理解するとともに、法の平等に係る現実社会の諸課題について考察する。	
	社会において不平等だと考える制度や、これまでに不平等だと感じた経験について考察させる。	○社会に残る不平等に気付かせ、学習に対する関心・意欲を高める。
	日本国憲法が保障する平等権について学習する。	○日本国憲法が保障する平等権の内容について理解させる。
	三菱樹脂訴訟の判例について学習する。	○日本国憲法が保障する平等権は、国家が国民に保障するものであり、私人間においては、必ずしも平等が保障されるわけではないことに気付かせる。
	性的志向や性自認に対する偏見や差別があること、性別の変更及び結婚を可能にする法律（性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律）が制定されたことを学習する。	○社会における性差別により深刻な悩みを抱えている人がいることに気付かせる。また性的マイノリティに対し、どのように接するべきなのかを考察させる。
民法における夫婦同姓を合憲とした最高裁判例を紹介した上で、選択的夫婦別氏（別姓）制度についてグループで考察させ、その是非について発表する。	○現代社会の諸課題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりさせる。 ※予想される意見：夫が妻の姓になることも可能なので、不公平とは言えない。結婚している意識を高めることができる。子どもが学校などで差別される。家族の一体感が高まる。女性の社会進出が促進される。結婚しても前の姓を通称として職場で利用すればよい。結婚する当事者の意思を尊重すべきだ。	

	<p>各グループの発表内容を踏まえて、選択的夫婦別氏（別姓）制度について改めて個人として考察させた上で、考察した内容をワークシートにまとめて提出する。</p> <p>夫婦同姓を規定している民法の改正に係る模擬投票を行う。</p> <p>※結果発表は、次時で行う。</p>	<p>◆【思考・判断力・表現】</p> <p>法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現している。</p>
--	---	--

(3) 資料等

民法最高裁判例抜粋、民法 750 条、憲法 13 条, 14 条 1 項, 24 条 1 項及び 2 項

高等学校における展開例



第3学年「現代社会に生きる自己の課題」(倫理)

1. 単元名 「現代に生きる自己の課題」

2. 単元の目標

- (1) 個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解する。
(知識及び技能)
- (2) 自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

「公共」の大項目「A 公共の扉」の中項目「(1) 公共的な空間を作る私たち」の学習での自己を確立する基盤を培うという青年期の課題を踏まえ、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるために、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方についても触れながら、様々な人間の心の在り方についての理解を深め、他者と共によりよく生きる自己の人格形成に努める意欲を高めることができるようにすることをねらいとしている。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解している。	自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成したりしようとしている。

5. 指導計画

時	◆学習項目	知	思	態	○おもな学習活動 ・ 学習活動
第1時	◆人間とは何か		○		○人間の特徴について学習する。 ・先哲の思想を複数提示し、他の動物とは異なる人間の特徴について、自分なりの見方・考え方を働かせる。※ホモ・サピエンス、ホモ・ファールベル、ホモ・ルーデンス、ホモ・シンボリクス、ホモ・レリギオースス etc
第2時	◆青年期の意義と課題	○	○		○青年期の人生における意義及び青年期の特徴について、心身の変化に着目しながら学習する。 ・青年期の意義と各時代における青年期の変遷について学習し、近代まで存在しなかった青年期がなぜ登場したのかを理解する。 ・第二次性徴に伴う身体的変化について理解し、身体的及び心理的成長がもたらす青年期の特徴について、ムンクの「思春期」を導入として用い、グループワークで考察する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 身体の変化を正しい知識のもとに受け入れ、性をもつ自分の役割と責任について理解する。 </div>
第3時 (本時)	◆自我の発見と自己形成			○	○自我の目覚めにより、青年が自身を独立した人格であることを意識し始めることを学習する。 ・自我の目覚めにより、アイデンティティの確立が必要となることを理解する。 ・レヴィンの「マージナルマン」について紹介し、「大人」にも「子ども」にも所属できない青年期が若者の心を不安定にすることを説明した上で、これまでの生活において境界人として心の葛藤があった場面について生徒に話し合わせ、考察を深める。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 性に関するアイデンティティの確立も必要であること、性的マイノリティであるがゆえに、自身の帰属意識が動揺する場合もあることを理解する。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 人間の命は、全て平等に尊厳性を有しており、性別の違い等によって、その尊厳が侵されることはあってはならないこと、しかし、現実には様々な性に対する差別や犯罪が存在し、その解決が必要になっていることを理解する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・フロイトの精神分析学やレヴィンの葛藤について理解する。 ・自分とは何者かを考察し、望ましい人間としての在り方生き方について追究する。



第4時	◆パーソナリティの形成と生きがい		○	○パーソナリティの形成とアイデンティティの確立が青年期の課題であることを踏まえて、自身の「生きがい」について学習する。 ・パーソナリティの定義やマズローの欲求階層説などを理解する。 ・様々な価値感に基づく自身の生きがいについて考察する。
-----	------------------	--	---	--

6. 展開例 (3/4)

(1) 本時の目標

- ・人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
主な学習内容・学習活動	自我の目覚めにより、アイデンティティの確立が必要となることを理解した上で、人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究しようとする。	
	自我の目覚めとアイデンティティの確立について学習する。	○アイデンティティを確立することがなぜ大事なのか、また、その確立に失敗した場合、どうなるのかを理解させる。
	レヴィンの「マージナルマン」について学習する。	○大人でも子どもでもないマージナルマン（境界人）としての存在が、青年を不安と孤独にさせること、その克服のためにアイデンティティの確立が必要であることを理解させる。
	性のアイデンティティについて学習する。	○身体の変化を正しい知識のもとに受け入れ、男女それぞれの性が持つ役割について理解させる。 ※性的マイノリティであるがゆえに、自身の性に関する帰属意識が動揺する事例を紹介する。
	2017年に性犯罪に関する刑法が110年ぶりに改正されたことにより、被害者の性別は問わないこと、懲役刑の下限が延長され厳罰化されたこと、被害者の告訴がなくても起訴できること、監護者による子どもへの性的虐待を処罰できるようになったことなどを紹介する。	○性別の違い等によって、性に対する様々な差別があること、また性に関する犯罪が存在することや性犯罪を処罰するために刑法が改正されたことについて理解させる。

自分とは何者かを考察させ、自身の特徴についてワークシートにまとめて提出させる。

◆【主体的に学習に取り組む態度】
人間としての在り方生き方に関する事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成したりしようとしている。



(3) 資料等

関係各新聞記事等



～コラムコーナー～

性感染症予防について

性感染症とは？

- ・性的な接触によってうつる感染症を性感染症といいます。性器や咽頭（のど）などの粘膜や周辺の皮膚に、血液・精液・分泌液などの体液が直接触れることによって感染が起こります。
- ・性感染症には、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマ、性器ヘルペス感染症、梅毒などがあります。
- ・性感染症の中には、不妊症の原因になるもの、妊娠中や出産のときに胎児にうつしてしまうもの、現在の治療では完全に治すことのできないものもあるので注意が必要です。

予防が大切です！

性感染症を予防するためには…

- ・最も効果的なのは、性的接触をしないこと。
- ・粘膜同士の直接の接触を避けること。
⇒性的接触の際にコンドームを使用することで感染のリスクを減らすことができます。
ピルでは性感染症は予防できません。
- ・カミソリや歯ブラシの共用を避けること。

性感染症について
正しい知識を
もちましよう



厚生労働省リーフレット（厚生労働省 HP より）



厚生労働省ポスター（厚生労働省 HP より）



性感染症 厚生労働省

検索

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/

性感染症 政府インターネットテレビ

検索

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg7565.html>

**高等部（知的障がい）1年「性情報への対応について」
（保健体育科 科目 保健〔1段階〕）**



1. 単元名 「保健」～性に関する情報への対処～

2. 単元の目標

- ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けること。（知識及び技能）
- イ 健康・安全に関わる自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。（思考力、判断力、表現力等）
- ウ 心身の発育・発達や、健康・安全に関わる自他の課題を発見し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

3. 単元について

本単元では、心身の機能の発達に関することについて、生徒が身体の形態的な発育や性徴に関心を持ったり、自分の身体の状態を考えたりすること、思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、自分の行動への責任感や異性を理解したり、尊重したりする態度が必要であることを理解できるよう指導する。また、生徒が身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、一人ひとりの性に対する考え方や行動が違うことを踏まえ異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解できるようにする。特に、性情報への対処については、書籍やインターネット上などからも簡単に性に関する情報を入手することができること、SNSなどを通じた誤った情報から性犯罪などの事件・事故に巻き込まれる場合があることなどを踏まえ指導する。

また、健康・安全に関わる自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えることでは、健康に関わる事象や健康情報などにおける自他の課題を発見し、自他における健康・安全に関する内容について思考し、判断したことを他者に表現できるように指導する。

そして、生徒が、心身の発育・発達や、健康・安全にかかわる自他の課題について発見し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができるよう指導する。

4. 指導計画

	学習内容	知	思	態	○おもな学習内容 ・学習活動
第1時	◆心身の機能の発達に関すること	○	○		○思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面の変化について ○心身の発達や性的成熟には個人差があることについて ・後ろ姿の絵で男女の体つきの特徴や変化がはっきり現れてくる時期について話し合う。 ・内分泌の働きによる生殖に関わる機能の成熟について知る。 ・男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを知る。 ○心理面の変化について ・思春期の不安や悩みの解決、性的な発達の対応について知る。 ・欲求やストレスへの対処と心の健康について話し合う。
第2時	◆異性の尊重と自分の行動への責任	○			○行動面の変化について ・性的関心が高まると性衝動が生じる場合があることを知る。 ・性ホルモンによって脳が刺激され性衝動が生じることについて、「異性

				<p>に触れてみたい」などの例を挙げて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性衝動のままに行動をすると、相手の気持ちを傷付けることがあることを知る。 ・教員のロールプレイや事例映像を参考に性衝動をコントロールする必要があることを知る。
第3時	◆異性の尊重と性情報への対処①		○ ○	<p>○誤った性情報への対処に関することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な性情報や性衝動をあおるような性情報の入手方法について考える。 ・性情報の事例が、必要か不必要か、信頼できるかできないかについて話し合う。 ・誤った情報で自他を傷付けることがないように、行動の選択について考える。
第4時	◆異性の尊重と性情報への対処②		○ ○	<p>○性トラブルの未然防止とその具体的な方策に関することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで個人の悩みや不安を相談することの効果や課題を考える。 ・性情報に惑わされず、安心・安全に生きていくためには何ができるかを考える。 ・インターネットで不安や悩みを解決することが、本当に正しいのか話し合う。 ・信頼できる情報は何か考え探してみる。
第5時 (本時)	◆異性の尊重と性情報への対処③		○	<p>○性トラブルにあっってしまったときの対処について①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の傾向（性被害の状況）について知る。 ・性暴力被害につながりやすい事例について知る。(JK ビジネス、SNS 被害など) ・「勝手に相手のスマホを見る」「裸の画像を無理やりとる」など、デートDV に当てはまることは何かを考える。
第6時	◆異性の尊重と性情報への対処④ (まとめ)		○ ○	<p>○性トラブルにあっってしまったときの対処について②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や他者の人格を尊重した行動について話し合う。 ・各自治体の相談窓口などについて知り、被害にあったときの対処を話し合う。

5. 展開例 (5/6)

(1) 本時の目標

- ・身近な性トラブルについて知り、トラブルにあっってしまったときの対処について考えよう。(思考・判断・表現)

(2) 展開 □ : ねらい ■ : 学習内容 ■ : 発問・指示など

	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入	<p>・前時までの学習内容を振り返る。</p> <p style="background-color: #ffe0b2; padding: 5px; border: 1px solid #ccc;">なぜ、性被害は増えているのだろうか？</p> <p>1 社会の傾向について知る。</p> 	<p>○性情報への対処について前時までを振り返る。</p> <p>○統計から子どもの性被害の状況等を説明する。</p> <p>○なぜ性被害が増えているのか考えさせる。</p> <p>○事犯の被害生徒の主なアクセス手段がスマートフォンであり、SNS に起因する事犯が増加していることから、自ら性トラブルを招いてしまうことに気付かせる。</p> <p>・「Twitter」に起因した被害生徒が全体の 35.3% など、身近なアプリに起因する被害者数が増加していることに気付かせる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年以降増加傾向にあり、被害者は中高生が 9 割近くに上ることを警察庁の統計から知る。 被害者のアクセス手段「スマートフォン」が 1701 人と多く「Twitter」221 人、「Instagram」160 人などの状況を知る。 被害者のうち、「スマートフォンなどのフィルタリングの利用なし」が 85.5%であることを知る。 	○前時に学んだ、誤った情報や心情をあおる情報も混在していることに気付かせる。
展開	<p>2 本時のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">身近な性トラブルについて知り、トラブルにあっってしまったときの対処について考えよう</div> <p>3 性トラブルにつながりやすい事例を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> JK ビジネス、デート DV、SNS 被害など聞いたことがあっても、実態をよく知らない事例について考える。 <div style="background-color: #f9cb9c; padding: 5px; text-align: center;">デート DV になるのはどれで、何が問題？</div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> 「JK-女子高生?」「デート?」など気軽な反応。 「DV って虐待?」など今ある知識で考える。 <ul style="list-style-type: none"> デート DV に当てはまると思う項目にチェックし何が問題(相手にされて嫌と思うか)をワークシートに記入する。 	<p>○事例を提示し、JK ビジネス、デート DV、SNS 被害などは、身近なところに潜み、だれにでも起こり得ることに気付かせる。</p> <p>○(事例)のすべてがデート DV にあたることを伝え、恋人との関係を見直してみようとする姿勢につなげる。</p> <p>○JK ビジネスの被害事例を提示し、「JK 散歩」や「JK コミュ」などの気軽な言葉であっても、危険なアルバイトであることに気付かせる。</p> <p>○SNS 被害について、Instagram」の投稿から「ストーカー被害にあう」「元彼にプライベート画像をネットに流される」などの身近な事例もあることに気づかせる。</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>身近な性トラブルについて知り、トラブルにあっってしまったときの対処について考えている。 (観察・ワークシート)</p>
	<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートに、今日学んだことを記入する。 	
まとめ		

(3) 資料等

- ・文部科学省：子供や若者を性暴力の当事者にしないための「生命（いのち）の安全教育」の教材等について
- ・参考：東京都練馬区ホームページより ～デート DV と性暴力～

6. 他教科との関連

(1) 特別活動との関連

本単元の「異性の尊重と性情報への対処」は、高等学校学習指導要領における特別活動のホームルーム活動と関連付けて指導することが考えられる。関連する内容は、以下の部分である。

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、コミュニケーションを図りながらよりよい集団生活をつくること。

オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

これらの内容の指導に当たっては、生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて内容を適切に選択し、日常生活の中から課題等を例示して具体的に指導することが大切である。

テーマ「性^{せい}トラブルにあってしまったときの対処^{たいしよ}について①」

Q. なぜ、性被害^{せいひがい}は増えているのだろう？

Q. デートDVになるのはどれで、何^{なに}が問題^{もんだい}？

じれい
 (事例) デートDVとは？「チェック☑してみよう」

あ おも
 ※当てはまると思うものすべてに☑してください

あいて きず ぼうげん
 ① 相手が傷つくような暴言をはく

け もの な
 ② たたく、蹴る、物を投げる

かって あいて み
 ③ 勝手に相手のスマホを見る

いせい れんらくさき け
 ④ 異性の連絡先を消させる

はだか がぞう どうが むり
 ⑤ 裸の画像や動画を無理やりとる

せいこうい きょうよう ひにん きょうりよく
 ⑥ 性行為を強要する・避妊に協力しない

なに ^{かんが}
何がいけないことなのか 考えよう

えら ^{ばんごう}
選んだ番号は () です。

なに
何がいけないかというと、

例) ・ ①は ^い ^{あいて} ^{きず} ^{おも}
言われた相手は傷つくと思うからです。

・ は、

・ は、

・

・

・

・

☆JK ビジネスとは？

- ・JK リフレ (マッサージ店で添い寝やハグをするバイト)
- ・JK 散歩 (男性客とデートするバイト)
- ・JK コミュ (室内で男性客と会話やゲームをするバイト)

これらのアルバイトの何が心配なのか考えよう

☆SNS被害とは？

- ・SNS からストーカー

(SNS に投稿した写真から自宅を特定され、ストーカー被害にあった)

- ・元カレからのリベンジポルノ

(別れた恋人に交際時に撮られた性的な画像や動画をネットに流された)

被害にあわないためには、どうしたらよいだろう？

まとめ. 今日勉強したこと

参考文献等

- ・幼稚園教育要領解説
- ・小学校学習指導要領、解説（体育、生活、道徳、学級活動）
- ・中学校学習指導要領、解説（保健体育、技術・家庭）
- ・高等学校学習指導要領、解説（保健体育、家庭、公民）
- ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）
- ・特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 体育】
国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】
国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】
国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和3年8月
- ・改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き 文部科学省 平成31年3月
- ・改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き 文部科学省 令和2年3月
- ・改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き 文部科学省 令和3年3月
- ・「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き 文部科学省 平成26年3月
- ・文部科学省 生命（いのち）の安全教育 指導の手引き（幼児期、小学生低・中学年、中学生）
- ・文部科学省 小学生（幼児期、小学生低・中学年、中学生）向け 教材例
- ・スタートカリキュラムスタートブック
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月
- ・発達や学びをつなぐスタートカリキュラム
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成30年3月
- ・学校における性教育の考え方、進め方 文部科学省 平成16年3月
- ・改訂版 国際セクシュアリティ教育ガイダンス 発行者＝株式会社明石出版
ユネスコ＝編 浅井春夫／良 香織／田代美江子／福田和子／渡辺大輔＝訳
発行者＝大江道雅 令和3年4月

（各種ホームページより）

- ・「青少年のネット利用実態把握を目的とした調査」
- ・東京都練馬区ホームページより ～デートDVと性暴力～
- ・性犯罪・性暴力対策の強化の方針 内閣府 男女共同参画局
- ・令和2年度 性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないための「生命の安全教育」調査研究事業 報告書 エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
- ・性同一性障がいや性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）文部科学省
- ・みんなで目指す！SDGs × ジェンダー平等
編集発行 男女共同参画推進連携会議（事務局：内閣府男女共同参画局）
- ・第5次男女共同参画基本計画 ～すべての女性が輝く令和の社会へ～ 内閣府



「性に関する指導の手引き」の改訂にあたって…

＜性に関する指導の手引きの改訂ワーキンググループメンバー及び原稿担当者＞

桐原 純子	神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課	グループリーダー兼指導主事
津崎 永幸	神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課	指導主事
片倉 保宏	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課	指導主事
田村 悠	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課	主任主事兼指導担当主事
水沢 文芳子	神奈川県教育委員会支援部子ども教育支援課	指導主事
松田 寿雄	神奈川県教育委員会支援部子ども教育支援課	指導主事
藤瀬 哲朗	神奈川県教育委員会支援部子ども教育支援課	指導主事
宮坂 英行	神奈川県教育委員会支援部子ども教育支援課	指導主事
安齋 友貴	神奈川県教育委員会支援部子ども教育支援課	指導主事
木村 明之	神奈川県教育委員会支援部学校支援課	指導主事
杉山 道代	神奈川県教育委員会支援部学校支援課	指導主事
本山 太一	神奈川県教育委員会支援部特別支援教育課	指導主事
堀野 史雄	神奈川県教育委員会支援部特別支援教育課	指導主事
村岡 知子	神奈川県教育委員会行政部行政課	主幹兼指導主事
大平 雅子	神奈川県教育委員会行政部行政課	専門員

＜アドバイザー＞

小笠原 和美 慶應義塾大学総合政策学部 教授

